

## この街にこの人あり

# 身近な科学のおもしろさを、楽しく・わかりやすく伝えていきたい 「サイエンスくらぶ」などで“科学あそび”の活動

「科学読物研究会」会員として“おもしろい科学の本”の紹介や執筆、図書館・児童館で“科学あそび”のイベント活動を行い、科学の楽しさを広める活動をされている原田佐和子さんにお話を伺いました。



原田佐和子さん

## ■今日に至るまで

理科好きの家庭に育ち、杉並区の科学教室での実験や先生の説明が印象に残っていることが一番の根っこにあり、小学校の卒業文集に「科学教室の先生になりたい」と書いた。大学では昼休みにも大好きな実験ができ、その時の思いが今実っている感じとのこと。小さい頃から『シートン動物記』が大好きで「シートンのかかげた灯」の紹介が載っている『続・科学の本っておもしろい』という本をたまたま手に取ったことが「科学読物研究会」に入るきっかけとなったと語る。『科学の本っておもしろい第4集』の編集と執筆に加わった時「文章を書くのって楽しい」と気付いた。『天文学 きらめく世界！』は、アメリカにおもしろい科学の本探しの旅に出かけた時見つけた本。「アメリカンジョークを自分なりに差し替えるなど苦労も多かったが、わくわく楽しみながら翻訳」なされた。「一番気に入っている『変身のなぞ』（共著、玉川大学出版部）は、小学校中学年以上が対象ですが、誰にでもわかりやすく伝わるように、文や絵にも工夫したので、読んでみてください」と推薦を受けた。



窓で明るく輝く「光の箱」



ダチョウとエミューとニワトリの卵の比較

## ■活動内容

原田さんが活動している「KSCCサイエンスくらぶ」は2002年9月にスタートし、月2回、小学生（30名程）を対象に、複数の講師が科学あそびを行っている（通算約330講

座）。原田さんは、自分が楽しめないと子どもたちに伝わらない、なるべく同じことはしたくないという思いから、毎回違うテーマを取り上げ、材料探しや予備実験をしているとのこと。「私が必ず子どもたちにいうのは、『学校のテストではないのだから、何を聞いても、間違えてもいいのよ』と。なので子どもたちは次々と意見を言ったり、工夫したり、のびのびと取り組んでいます」と語ってくださった。

左の写真は、「サイエンスくらぶ」での子どもたちの活動や説明に使っているもの。上の写真で着ていらっしゃるTシャツのデザインは元素周期表です。

## ■膨らむ今後の夢

原田さんからは次のような抱負をお聞きました。

### ①自宅を科学あそびの準備ができる場所にしたい

一階に関係する本やグッズを収納。自然が大好きなので、庭は雑草園にして虫や鳥をよび、「〇〇工房」と名付けたい。

### ②仲間づくりをしたい

準備を一緒にして意見を出し合い、相談する仲間が欲しい。子どもだけでなく、大人向けにも何かできたらと考えている。そして後輩を育てたい。

### ③演劇とつなげたい

イギリスの科学ミュージアムの公演を観て、役者は人の心をつかむのがとても上手だと思った経験から、演劇は科学を伝えるひとつの手法だと感じた。杉並に新しく科学の拠点「座・高円寺」の隣にできるので、役者の人とタイアップして科学演劇をやることができたらと思う。

連絡先 ●KSCC向陽スポーツ文化クラブ  
東京都杉並区下高井戸3-24-1  
TEL.03-3329-3935 日曜のみ(10時~16時)  
●科学読物研究会  
E-mail:kagakuyomimono@gmail.com